

名取市 市街地

1号塚

2号塚

3号塚

遺跡近景（北西から）

# 明らかにになる中世の信仰

## くまのなち きょうづか たかだて ⑧熊野那智神社経塚群（名取市高館）



名取市高館の熊野那智神社の中にある遺跡で、12基の経塚などが確認されています。遺跡のある熊野那智神社は、「名取熊野三山」の一つで、古くから霊場として信仰されてきました。

今回は名取市史編さん事業の一環として、遺跡の中心部にある1～3号塚周辺で発掘調査が行われました。塚に収められた遺物などから、当時の人々の信仰の様子を知ることができています。

# 1号塚出土の灰釉三耳壺

鎌倉時代後期（13世紀後半）に、瀬戸窯（現在の愛知県瀬戸市周辺）で焼かれた灰釉三耳壺です。本来は水や酒などを入れる容器でしたが、ここではお経などを入れて塚に収められたようです。



## 特徴① 灰釉の表面

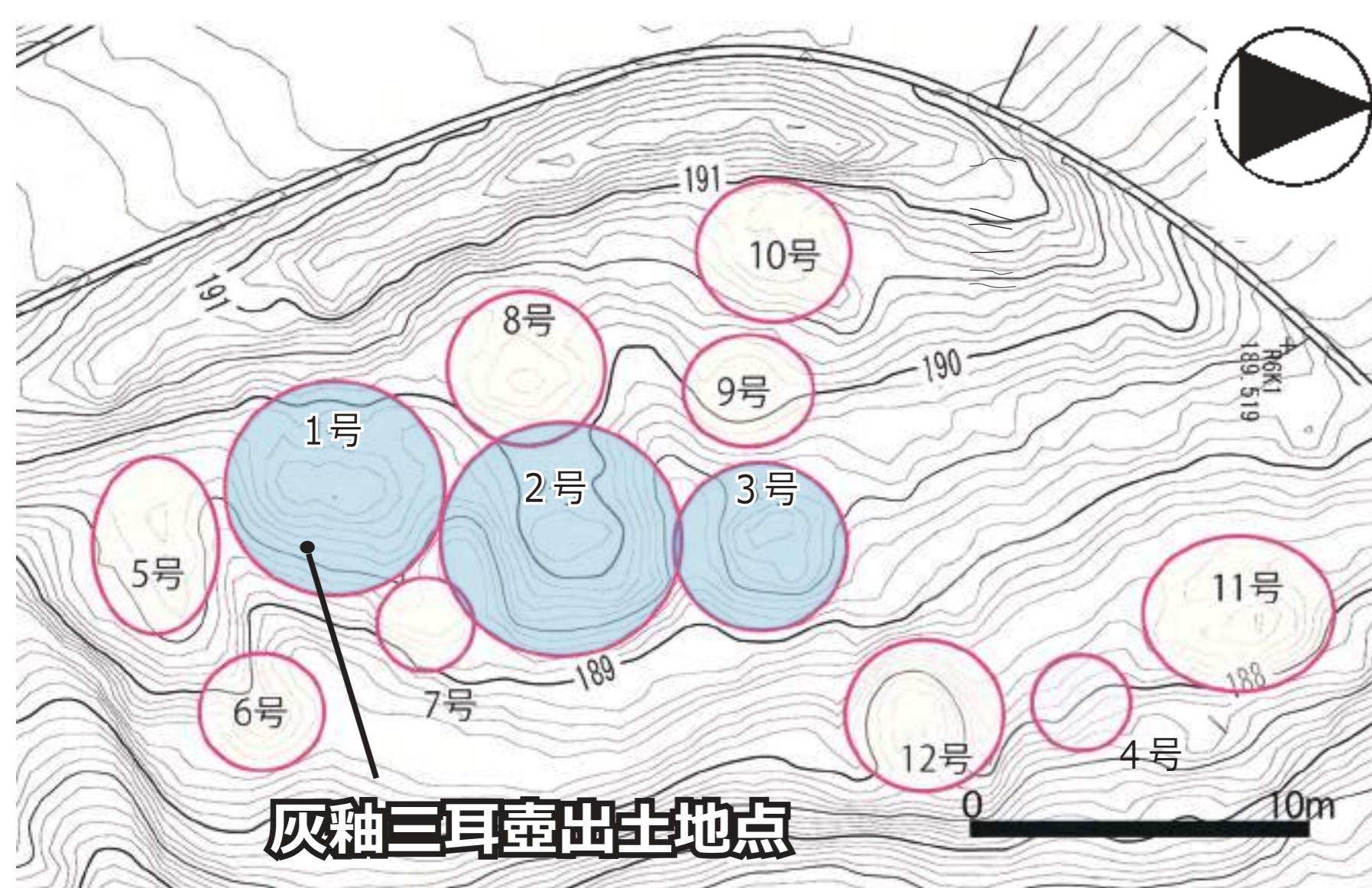
植物の灰を主な材料とした釉薬を表面に塗り、焼くことで、少し緑色な透明感のある表面を作り出しています。

## 特徴② 表面の文様

肩から胴の部分には、巴文（渦巻が尾を引くような文様）と口に対して平行方向の沈線（凹んだ線）が、刻まれています。

## 特徴③ 3つの耳

肩の部分に3つの【耳】が付いており、名前にもなっている特徴です。紐を通して蓋を押さえたり、吊り下げていたと考えられます。



## ▲経塚の分布

経塚とは、仏教のお経を容器に入れ、土の塚に埋めたものです。平安時代から鎌倉時代にかけて、日本中で造られました。今回の発掘調査では、3基の経塚を調査しました。



1号塚・灰釉三耳壺出土状況

中世の人々はどんな願いをこめて経塚を造ったのかな？



協力：名取市教育委員会